

チームしんすけ農場で取り組む、おいしい野菜づくり

1 現在の農業経営の概要

経営地・氏名	兵庫県 井藤 真輔 さん
経営開始年	平成25年（2013年）
営農類型	施設野菜（トマト・網干メロンほか）
経営規模	ハウス30a 露地40a
公庫資金ご利用歴	<就農3年目> ハウス改修のため青年等就農資金 (3百万円) <就農5年目> ハウス増棟のため青年等就農資金 (17百万円)



2 就農までの経歴・就農のきっかけ

- ・兵庫県出身。祖父が兼業農家で幼少期から田畑に親しみ、食に対する興味から農学系を志望。兵庫県立農業大学校、愛知県立農業大学校で学び、卒業後は兵庫県農業共済組合連合会に11年間勤務。農業現場における病害等と向き合う経験を重ねる。
- ・脱サラ後、「おいしい野菜づくり」の観点から食品加工等について福祉調理学校で半年間学び、さらに姫路市の施設野菜農家で1年間研修、平成25年4月に実家の農地を引き継ぐ形で独立就農。周辺の住民や友人のボランティアなどへの感謝を込めて「チームしんすけ農場」名で野菜の生産・直売などに取り組む。

3 今後の抱負/後に続く新規就農者の方々に送るエール

◆今後の抱負◆

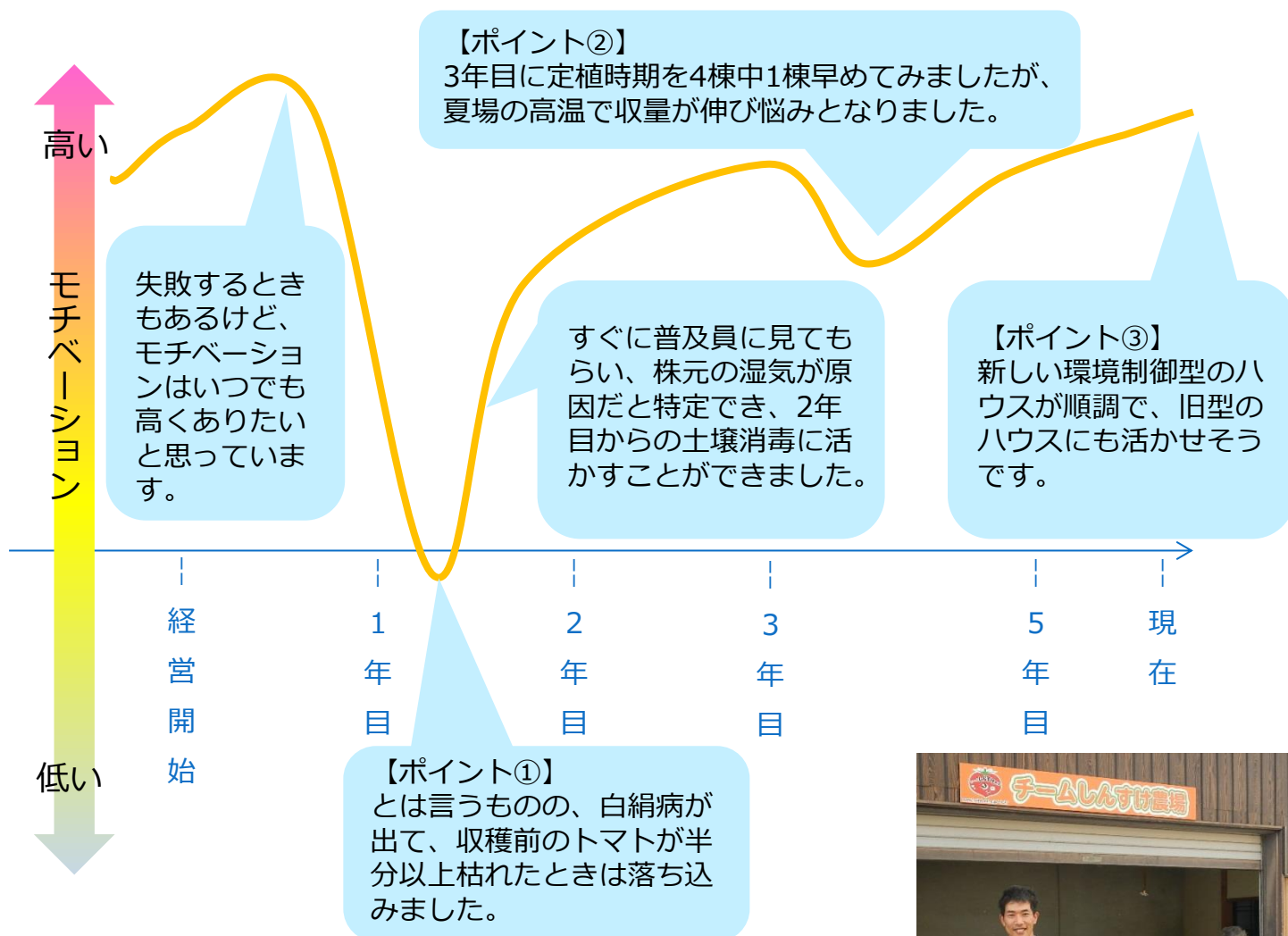
ハウスを増築し、認定農業者になりました。トマト、網干メロンはじめ多品種の野菜を作り、知名度アップのため、ドライトマトやジャムなども販売しています。今後は、妻が勉強中のイチゴにもチャレンジし、経営のステップアップを目指しつつ「おいしい野菜づくり」を頑張りたいと思います。

◆後輩のみなさんへ◆

最初は研修先の師匠の取引先であるスーパーなどに出荷させてもらっていましたが、農業は一人ではやっていけません。家族や両親、友人ボランティアのほか、県、市、農協、業者など色々な人の協力が経営の支えになっています。そういった方たちへの「感謝」の気持ちを忘れずに取り組んでいくことが大切だと思います。



4 井藤さんのこれまでの経営とモチベーショングラフ



5 モチベーショングラフのポイント解説

主なできごと / 経営上の課題と解決策

- ① 1年目に白絹病が発生し収穫前のトマトの半分が枯れてしまいました。株元の堆肥に研修先で学んだ要領で馬糞を使ったのですが、堆肥の使い方に問題があったのか、土壌の湿度の高まりとともに伝染してしまいました。
就農前に共済連に勤めていたこともあり、すぐ普及員※に相談し、病原を特定でき、土壌消毒に反映することができました。
※農家に対し農業技術の指導等を行う都道府県の職員。
- ② 3年目に夏のトマトの単価アップを目的に、4棟中1棟の定植時期を6月にしてみましたが、7~8月の高温で収量が伸び悩みました。
4年目は元に戻し対応しています。
- ③ 5年目に新しい環境制御型のハウスを整備しました。温度・湿度・二酸化炭素を調整し、良い環境で栽培できていると思います。また、古いハウスと新たなハウスでは単収に差があり、古いハウスにも新たなハウスの環境を再現することで、更なる収量増を目指したいと考えています。